

1 ねらい

浮世絵とそれらにかかわる人物について調べ、江戸時代には町人の文化が栄え、社会に広まっていったことが分かる。

2 授業の流れ

1 導入・視聴前のポイント (5分)

- ・歌川広重が描いた浮世絵とゴッホの油絵を提示して比べさせ、気づいたことやどちらが先に描かれたものか等の疑問について話し合う。
- ★人物年表等を使って歌川広重が活躍した時代を確かめ、浮世絵は江戸時代に描かれたものであること、ゴッホなどヨーロッパの画家の絵と共通点があることに関心をもたせる。

2 番組視聴1 学習問題の提示・ワークシート1 (8分)

- ・歌川広重が描いた浮世絵や江戸の町で人気のある浮世絵について視聴する。
- ・映像を一度止めて、学習問題を板書するなどして提示する。
- 「歌川広重などが描いた浮世絵はどのようにして広まっていったのだろうか？」
- ・歌川広重とその作品についてまとめる。

3 番組視聴2 (前半) ワークシート2 (7分)

- ・浮世絵ができるまでの様子を視聴し、印刷によって大量につくることが可能であることを確かめ、分かったことをワークシートにまとめる。
- ★多色刷り版画の技術により大量印刷が可能になり、庶民にも手に入れやすくなったことを理解させる。

4 番組視聴3 (前半) ワークシート3 (10分)

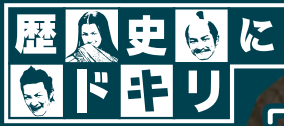
- ・歌舞伎や相撲、歌川広重が描いた東海道の景色などの浮世絵は庶民にとって人気があったことを確かめ、分かったことをワークシートにまとめる。
- ★浮世絵から、江戸時代には町人が歌舞伎や相撲などの娯楽を楽しんだり、旅を楽しんだりするようになるなど、町人のくらしが変化したことを理解させ、浮世絵は町人のために描かれたことに気付かせる。

5 番組視聴4 (前半) (5分)

- ・歌を聴きワークシートにまとめた内容を振り返る。

6 番組視聴5 (後半) 学習のまとめワークシート4 (10分)

- ・「ドキリ・ポイント」を手がかりに、学習問題について自分の考えをまとめる。
- ・江戸時代の新しい文化について感想を交流する。
- ★学習したことを振り返り、江戸の町が平和になり町人の間に浮世絵などの文化が広まっていったことを理解させる。



ワークシート

うたがわひろしげ

歌川広重

～江戸時代の町人文化・浮世絵～

くみ

なまえ

学習課題

「歌川広重が描いた浮世絵はどのようにして広まっていったのだろうか？」

1 歌川広重とその作品について調べよう

歌川広重について

- ・1797年～1858年
- ・下級武士の家に生まれる
- ・250年前の江戸時代後半に活躍した浮世絵師

歌川広重の作品について

- ・「東海道五十三次」（2万枚以上印刷された）旅好きな江戸の町の人に大人気だった。旅人の様子を生き生きとあらわしていた。
- ・「名所江戸百景」江戸の町の様子を町人のために描いた。

2 浮世絵はどのようにつくられるのだろうか？

- ① 浮世絵師が墨で絵を描き、どこにどんな色をつけるか決める。
- ② 彫り師が絵を板にはり、りんかくだけをのこして板をほる。
- ③ 色の部分は別の板にほる。
- ④ める色ごとに板を分ける。
- ⑤ すり師が色ごとに分けて、すれないように何度もすっていきます。

- ・浮世絵は大量につくることができたので、安く売ることができた。
- ・たくさんの人が買うことができた。

3 どのような浮世絵が人気があったのでしょうか？それはなぜでしょう？

江戸時代は平和な時代が続き、町人の生活も豊かになった。

- ・町人の好むものが浮世絵で描かれた。例えば、歌舞伎役者の絵、美人画、すもうなどが人気があった。
- ・町人や百姓がお寺や神社をお参りする旅が人気だったので、東海道五十三次も人気になった。
- ・貴族や武士でなく、浮世（社会）の様子を描いて庶民（町人）に喜ばれた。

4 学習のまとめをしよう。

- ・印刷技術が発達して、大量印刷ができるようになって安く売れるようになり、広まった。
- ・町人に人気のある歌舞伎役者や美人などを描くことで、町人に広まった。
- ・浮世絵は外国にも伝わり、ヨーロッパのゴッホやモネなどにも影響を与えた。

